

【 復活のトロパリ 第3調 】



てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの
天在者樂、地在者

よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら
悦主其臂力顯

わして、しをもってしをほろぼし、ふ復
死以死滅

くかつのはじめとなあり、われらをぢごく
活首我等地獄

のはらよりすくうい、せかいにおおいな
腹救世界大

るあわれみをたまいたればなり。

【 日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調 】



しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
使徒等同座者忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
實神智役者聖

なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい
神撰笛愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
満器我國光

しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
照お者亜使徒主教聖

よ、なんぢのぼくぐんのたあめ、および
爾羊群爲及

ぜんせかいのために、いのちをたもうせい
全世界爲生命賜うせい

さんしゃにいのりたまえ。
三者祈給

【 日本の亜使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこおとせいしんにき
光榮父子おとせいしんき歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
成聖者亞使徒聖我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國爾旅人及異邦人受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾は初我國於己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
外來者知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光暖かきながし、爾の敵

きをぞくしんのことなあし、かれらにか
屬神子爲あし、彼等神

みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
 恩寵 與 教 會 建
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり
 今 此 教 會 爲 祈
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 復活のコンダク 第3調 】

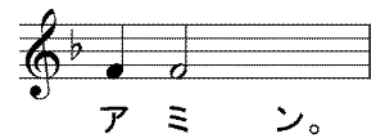
いまもいつもよよにい、アミン。
 今 何 時 世 世
 じれんなるしゆよ、なあんぢはいまはかよりふ復
 慈 憐 主 爾 今 墓 復
 くかつして、われらをしのもんよりのぼせ
 活 我 等 死 門 升
 たまえり。いまアダムはたのしみ、
 給 今 樂
 エヴァはよろこおび、しよよげんしゃはれつそとと借
 歡 諸 預 言 者 列 祖 借
 もにたえずなんぢのけんぺえいのしんせい
 絶 爾 權 柄 神 聖



なるのうりょくをほめうとお
能力讃歌う。

司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
ねがものちえめいごあたつみおこなものすそのすくいためつうかい
願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行なう者を棄てずして、其救の爲に痛悔
を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讃榮を奉るに堪うる者と
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
もつわれらのぞわれらおよじゆうじゆうつみゆるわたましいからだ
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる
生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
に、



アミン。

【 聖三祝文 】



せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖神聖勇毅聖

じょうせいのもものよ、われらをあわれめ
常生者我等憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖神聖勇毅聖

なるじょうせいのもものよ、われらをあわれめよ。
 常生者我等を憐れめよ。
 せいなるかみ、せいなるゆうき、
 聖なるじょうせいのもものよ、われらをあわれめよ。
 常生者我等を憐れめよ。
 せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわれめよ。
 常生者我等を憐れめよ。
 せいなるかみ、せいなるゆうき、
 せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわれめよ。
 常生者我等を憐れめよ。

司祭) (黙誦：^{しゅ な よ き もの あが ほ}主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、^{ぎ もの なんぢ そのくに}ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
^{こうえい ほうざ あ つね あが ほ いま いつ よよ}の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 ^{プロキメン} 提綱 主日第3調 】

司祭) ^{つつし き しゅうじん へいあん} 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{わ かみ うた うた} プロキメン、我が神に歌い歌えよ、^{わ おう うた うた} 我が王に歌い歌えよ、

わ が か み に う た い う た え よ 、 わ が お う
我 神 歌 歌 我 王
に う た い う た え よ 。
歌 歌

誦經) ^{ばんみん て う よろこび こえ もつ かみ よ} 萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ、

わ が か み に う た い う た え よ 、 わ が お う
我 神 歌 歌 我 王
に う た い う た え よ 。
歌 歌

誦經) ^{わ かみ うた うた} 我が神に歌い歌えよ、

わ が お う に う た い う た え よ 。
我 王 歌 歌

【 ^{アポストロス} 使徒經 158端 コリント前書15章1節~11節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと じん たつ ぜんしょ よみ} 聖使徒パヴェルがコリント人に達する前書の讀、

司祭) ^{つつし き} 謹みて聽くべし、

誦經) ^{けいてい わ かつ なんぢら つた ふくいん またなんぢら つ すなわちなんぢら う ところ} 兄弟よ、我が嘗て爾等に傳えし福音を復爾等に告ぐ、仍爾等が受けし所、
^{これ もつ た ところ なんぢらも これ わ ふくいん ごと まも かついたづら しん} 之を以て立ちし所なり。爾等若し之を我が福音せし如く守り、且徒に信ずるこ
^{となくば これ よ すくい え けだしわ はじめ なんぢら つた ところ われみづか う} となくば、之に由りて救を得ん。蓋我が初に爾等に傳えし所は、我自らも受け
^{ところ すなわち われら つみ ため し せいしょ しる ごと またかれ} し所なり、即ハリストスは我等の罪の爲に死せり、聖書に録せるが如し、又彼は
^{ほうむ だいさんじつ ふくかつ せいしょ しる ごと また のちじゅうににん あらわ} 葬られ、第三日に復活せり、聖書に録せるが如し。又キファに、後十二人に現

そののちごひやくよ けいてい とも あ あらわ そのうちおお もの いま いた なおそん
 れ、其 後 五 百 餘の 兄 弟と 共 に在るに 現 れたり、其 中 多 くの 者 は今 に至るまで 猶 存
 す、已に 寢 りたる 者 もあり。其 後 イアコブに、又 悉 くの 使 徒に 現 れ、卒 に我 月 足ら
 ぬ 如 き 者 にも 現 れたり。蓋 我 は 使 徒の 中 に於て 最 小 き 者 にして、使 徒と 名 づけら
 るるに 堪 えず、神 の 教 會を 窘 逐 せしが 故 なり。然 れども 神 の 恩 寵 に由りて、我 は 我
 たるを得たり、且 我 に 存 する 神 の 恩 寵 は 空 しかからざりき、乃 我 は 彼 等 衆 よりも 多
 く 勞 せり、然 るに 我 に 非 ず、乃 我 と 偕 にする 神 の 恩 寵 なり。故 に 我 と 彼 等 とを 論
 ぜず、我 等 是 くの 如 く 傳 う、爾 等 も 是 くの 如 く 信 ぜり。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受けいれ、それ
 によって立ってきたあの福音を、思い起してもらいたい。もしあなたがたが、いたずらに信じないで、
 わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。わたしが
 最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであつた。すなわちキリスト
 が、聖書に書いてあるとおりの、わたしたちの罪のために死んだこと、そして葬られたこと、聖書に書いて
 あるとおりの、三日目によみがえつたこと、ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。そののち、
 五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠つた者たちもいるが、大多数はいまなお
 生存している。そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、そして最後に、いわば、月
 足らずに生れたようなわたしにも、現れたのである。実際わたしは、神の教会を迫害したのであるから、
 使徒たちの中でいちばん小さい者であつて、使徒と呼ばれる値うちのない者である。しかし、神の恵み
 によって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜つた神の恵みはむだにならず、
 むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたし
 と共にあつた神の恵みである。とにかく、わたしにせよ彼らにせよ、そのように、わたしたちは宣べ伝
 えており、そのように、あなたがたは信じたのである。

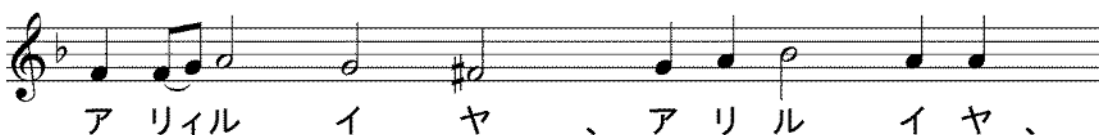
【 アリルイヤ 主日第3調 】

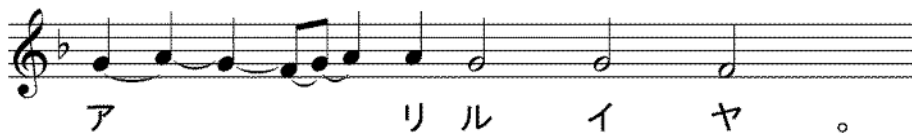
司祭) 爾 に 平 安、

誦經) 爾 の 神 にも、

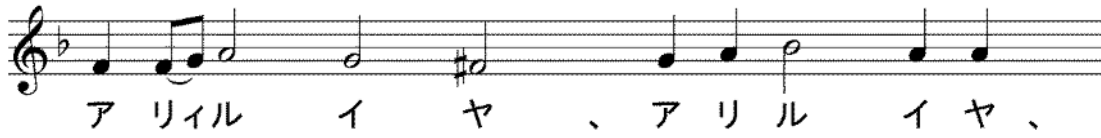
司祭) 睿 智、

誦經) アリルイヤ、

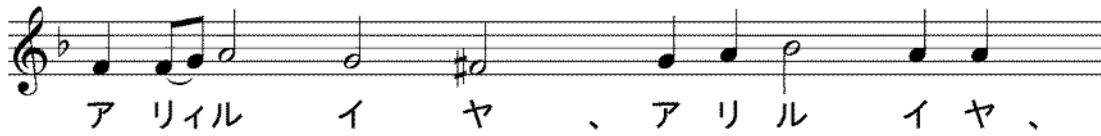




誦經) ^{しゅ われなんぢ たの ねが われよよ はぢ え} 主よ、我爾を恃む、願わくは我世に羞を得ざらん、



誦經) ^{わ ため けんご かくれが われ つね かく え たま} 我が爲に堅固なる避所となりて、我に常に隠るるを得しめ給え、



司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ} 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん} 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

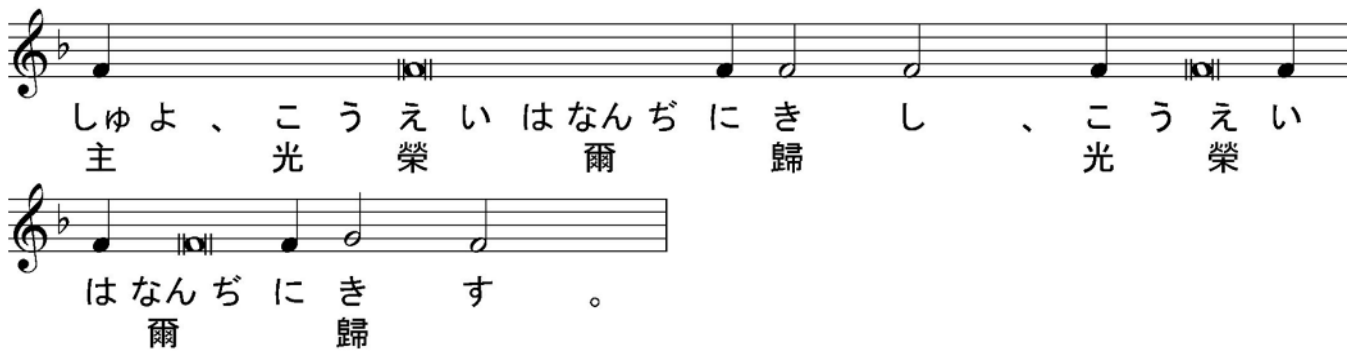
^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ} て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世に、アミン。)

【 ^{エヴァンゲリオン} 福音經 マトフェイ福音書 79 端 19 章 16~26 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} マトフェイ傳の聖福音經の讀、



司祭) ^{つつし き か とときあるわか もの つ ひざまづ い ぜん し われ}
 謹みて聴くべし、彼の時或少き者イイスに就きて、跪きて曰えり、善なる師よ、我
^{えいえん いのち え たため なに よ こと な かれ これ い なんぢ なん われ ぜん}
 永遠の生命を得ん爲に、何の善き事を爲すべきか。彼は之に謂えり、爾は何ぞ我を善
^{とな ひとりかみ ほか ぜん もの なんぢも いのち い ほつ いましめ まも}
 と稱うる、獨神より外に善なる者なし、爾若し生命に入らんと欲せば、誠を守れ。
^{かれいわ なん いましめ い ころ なか いん なか ぬす なか もうしょう}
 彼曰く、何の誠ぞ。イイス曰えり、殺す母れ、淫する母れ、竊む母れ、妄證す
^{なか なんぢ ふぼ うやま またなんぢ となり あい おのれ ごと わか ものかれ い}
 る母れ、爾の父母を敬え、又爾の鄰を愛すること己の如くせよ。少き者彼に謂
^{われいとけなき みなこれ まも なおた もの なん これ い なんぢかん}
 う、我幼より皆之を守れり、尚足らざる者は何ぞや。イイス之に謂えり、爾完
^{ぜん ほつ ゆ なんぢ しょゆう う ひんしゃ ほどこ しか たから てん たも}
 全ならんと欲せば、往きて、爾の所有を售りて、貧者に施せ、然らば財を天に有た
^{かつきた われ したが わか ものこ ことば き うれ き おおい しさん も}
 ん、且來りて我に従え。少き者此の言を聞きて、憂いて去れり、大なる資産を有て
^{ゆえ そのもんと い われまこと なんぢら つ と もの てんこく い かた}
 る故なり。イイス其門徒に謂えり、我誠に爾等に語ぐ、富める者は天國に入ること難
^{またなんぢら つ らくだ はり あな とお と もの かみ くに い やす もんとこれ}
 し。又爾等に語ぐ、駱駝が針の孔を穿るは、富める者が神の國に入るより易し。門徒之
^{き はなはだおどろ い しか だれ よ すく め そそ かれら い}
 を聞きて、甚驚きて曰えり、然らば誰か能く救われん。イイス目を注ぎて、彼等に謂
^{こ ひと よく ところ ただかみ よく ところ}
 えり、此れ人には能せざる所なり、唯神には能せざる所なし。

(比較用 口語訳) ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい」。彼は言った、「どのいましめですか」。イエスは言われた、「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。父と母とを敬え』。また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』」。この青年はイエスに言った、「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか」。イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい」。この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。それからイエスは弟子たちに言われた、「よく聞きなさい。富んでいる者が天国にはいるのは、むずかしいものである。また、あなたがたに言うが、富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。弟子たちはこれを聞いて非常に驚いて言った、「では、だれが救われることができるのだろうか」。イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し、こうえい
光 榮
はなんぢにきす。
爾 歸 す。

※聖体礼儀③（金ロイオン聖体礼儀）へ